



第3 実態調査結果の概要

1 実態調査について

(1) 調査の目的

わが国の子どもの相対的貧困率は、平成24年度時点で16.3%（6人に1人）となっている。福岡県の場合、生活保護や就学援助の状況を勘案すると、子どもの貧困率は全国数値を上回っていることが推測され、早急な対策が求められています。

このような状況をふまえ、今回のうきは市「子どもの健康と生活に関する調査」（以下、「本調査」）は、国・福岡県が策定している「子供の貧困対策に関する大綱」および「福岡県子どもの貧困対策推進計画」に基づき実施するものです。

調査では、うきは市における「子どもの健康・生活実態」を明らかにすることを目的に、うきは市内の保育園・幼稚園、公立小学校・中学校の保育士・教員を対象に調査票を配布して、子どもたちが現在おかれている状況の把握できるよう努めました。

本調査実施後、子どもの将来がその生まれ育った環境に左右されることなく、また、貧困が世代を超えて連鎖することがなく、すべての子どもたちが「夢と希望」を持って成長していけるように「うきは市子どもの未来応援地域ネットワーク形成支援体制実施計画」（以下、「計画」）を策定し、子どもたちの成長段階に合わせて切れ目のない確実な支援体制を整備する事を目的とします。

(2) 調査対象者

うきは市内の保育園・幼稚園、公立小学校・中学校の保育士・教員

(3) 調査期間

保育園及び幼稚園：平成28年10月4日～10月14日（アンケート）

平成28年10月12日～10月27日（ヒアリング）

公立小学校及び中学校：平成28年9月26日～10月7日

(4) 実施方法

うきは市内の保育園・幼稚園、公立小学校・中学校に調査票と封筒を配布しました。各教員が記入し、密封されたものを学校ごとにとりまとめてもらい、10月14日（保育園及び幼稚園）、10月7日（公立小学校・中学校）に回収しました。調査票はそのまま久留米大学社会福祉学科上原研究室に送付しました。調査票は無記名、自記式です。

なお、保育園及び幼稚園のみ、調査票では子どもの生活実態を把握するためにヒアリングを実施しました。

(5) 倫理的配慮

調査票は久留米大学御井学舎倫理委員会の承認を得ており、調査票の入力においてはコード化し、匿名性の確保に十分注意しています。また、回答内容は統計的に処理し、行政資料及び研究活動以外では使用しないことを関係者に伝え、承諾を得ています。

(6) 学識協力者

本調査の実施においては、学識協力者2名の協力を得ました。

学識協力者：上原紀美子氏（久留米大学文学部教授）

田中 将太氏（久留米大学文学部助教、NPO 法人地域たすけあいの会 理事）

(7) 回収状況

機関名	校数	配布数(N)	回答者数(n)	回収率(%)
保育所	8	37	37	100
幼稚園	2	12	12	100
小学校	10	115	114	99.1
中学校	2	38	38	100
全体	22	202	201	99.5

(8) 回答者の役職（一つのみ回答）

役職名	保育園・幼稚園(n)	小学校(n)	中学校(n)	合計(n)	割合(%)
管理者	1	20	4	25	12.4
担任	46	69	25	140	69.7
養護教諭	0	9	2	11	5.5
教諭（加配含）	1	7	5	13	6.5
教諭外	0	2	0	2	1.0
無回答	1	7	2	10	5.1
合計	49	114	38	201	100

(9) 回答者の主な資格（複数回答可）

資格	保育園・幼稚園(n)	小学校(n)	中学校(n)	合計
教諭	11	87	34	132
養護教諭	0	9	2	11
社会福祉士	0	0	0	0
精神保健福祉士	0	0	0	0
保育士	44	0	0	44
その他	6	2	4	0

(10) 勤続年数（一つのみ回答）

年数	保育園・幼稚園(n)	小学校(n)	中学校(n)	合計	割合(%)
10年以下	13	35	12	60	29.9
20年以下	21	11	3	35	17.4
30年以下	11	27	13	51	25.4
40年以下	2	33	8	43	21.4
無回答	2	8	2	12	6.0
合計	49	114	38	201	100

2 実態調査の結果

(1) 子ども・家庭が抱える問題

担当する学校、クラス等の状況を、①食事（3問）、②衣類・衛生（4問）、③健康（6問）、④家庭（4問）、⑤学校生活（8問）、⑥経済面（8問）の計33項目について、選択肢（1 思わない、2 あまり思わない、3 わからない、4 思う、5 とても思う）から最も該当するものを選択してもらいました。

回答結果を平均値化したところ、まず、全体として、問20の項目（「授業中に教室を動き回る等落ち着きのない子どもがいる」）以外では、保育園・幼稚園、小学校、中学校と学年があがるにつれ、「思う」、「とても思う」と回答する割合が高くなっています。特に中学校では全33項目のうち30項目で平均値が高くなっています。これは教師が子どもたちと接するなかで「子ども・家庭が抱える問題」として認識できるほど大きくなっていることを示しています。また、小学校から中学校に学年があがるにつれ、「22.孤独・孤立を感じている子ども」が「2.78→3.66」、「23.将来に希望を持ってない子ども」が「2.61→3.92」と高くなっています。子どもたちが現在おかれている状況が精神的にも何らかの影響を及ぼしていることが推測できます。

全体として回答率が高かったのが、「9.精神的な不安定さがある子どもがいる (3.51)」、「19.基本的な読み書き・計算が難しい子がいる (3.39)」、「21.忘れ物等が日常的に多い子どもがいる (3.32)」です。特に「9.精神的な不安定さがある子どもがいる」の回答が保育園・幼稚園では 2.75、小学校では 3.62、中学校では 4.16 と高くなっています。発達障害等も考慮にいれつつも、経済的な問題等が子どもの精神状況、成長発達等にどのように影響しているのか分析していく必要があります。

その他、回答率が高かったものは、「6.爪が伸びており、爪垢がたまっている子どもがいる (2.71)」、「7.歯磨きをしない、または歯磨きができていない子どもがいる (2.77)」、「8.低体重または過度の肥満の子どもがいる (2.75)」、「13.虫歯が多いにもかかわらず治療をしていない子どもがいる (2.64)」、「14.学校行事にほとんど参加しない保護者がいる (2.64)」、「15.必要書類、提出物の提出がなされない保護者がいる (2.78)」、「18.欠席が目立つ子どもがいる (2.67)」、「20.授業中に教室を動き回る等落ち着きのない子どもがいる (2.7)」、「22.孤独・孤立を感じている子どもがいる (2.60)」、「23.将来に希望を持っていない子どもがいる (2.57)」でした。

種別ごとにみていくと、保育園・幼稚園では、「9.精神的な不安定さがある子どもがいる (2.75)」、「20.授業中に教室を動き回る等落ち着きのない子どもがいる (2.67)」、「6.爪が伸びており、爪垢がたまっている子どもがいる (2.63)」の順に高い結果がでました。

小学校では、「9.精神的な不安定さがある子どもがいる (3.62)」、「19.基本的読み書き・計算が難しい子がいる (3.59)」、「21.忘れ物等が日常的に多い子どもがいる (3.40)」の順に高かったです。その他にも「1.家庭での食事は、一人で食べている等 (孤食) が会話にあがる子どもがいる (2.59)」、「6.爪が伸びており、爪垢がたまっている子どもがいる (2.74)」、「7.歯磨きをしない、または歯磨きができていない子どもがいる (2.89)」、「8.低体重または過度の肥満の子どもがいる (2.81)」、「14.学校行事にほとんど参加しない保護者がいる (2.79)」、「15.必要書類、提出物の提出がなされない保護者がいる (2.79)」、「20.授業中に教室を動き回る等落ち着きのない子どもがいる (2.5)」、「22.孤独・孤立を感じている子どもがいる (2.78)」、「23.将来に希望を持っていない子どもがいる (2.61)」も回答する割合が高い状況でした。

中学校では 33 項目のうち 30 項目で平均値が高くなりましたが、そのなかでも「19.基本的読み書き・計算が難しい子がいる (4.34)」が最も高く、次いで「9.精神的な不安定さがある子どもがいる (4.16)」、「21.忘れ物等が日常的に多い子どもがいる (4.16)」が高い結果がでました。その他にも「1.家庭での食事は、一人で食べている等 (孤食) が会話にあがる子どもがいる (3.35)」、「2. (日常的に) 空腹を訴える、食べ物をねだる等、食事を食べていないと思われる子どもがいる (2.53)」、「4.散髪をしていない、または洗髪ができていない子どもがいる (2.53)」、「5. 身体や衣類からの臭いが気になる子どもがいる (2.76)」、「6.爪が伸びており、爪垢がたまっている子どもがいる (2.74)」、「7.歯磨きをしない、または歯磨きができていない子どもがいる (2.74)」、「8.低体重または過度の肥満の子がいる (3.34)」、「10. 自傷行為をする子どもがいる (3.18)」、「11.授業中に寝ていることが多い子どもがいる (4.05)」、「13.虫歯が多いにもかかわらず治療をしていない子どもがいる (3.14)」、「14.

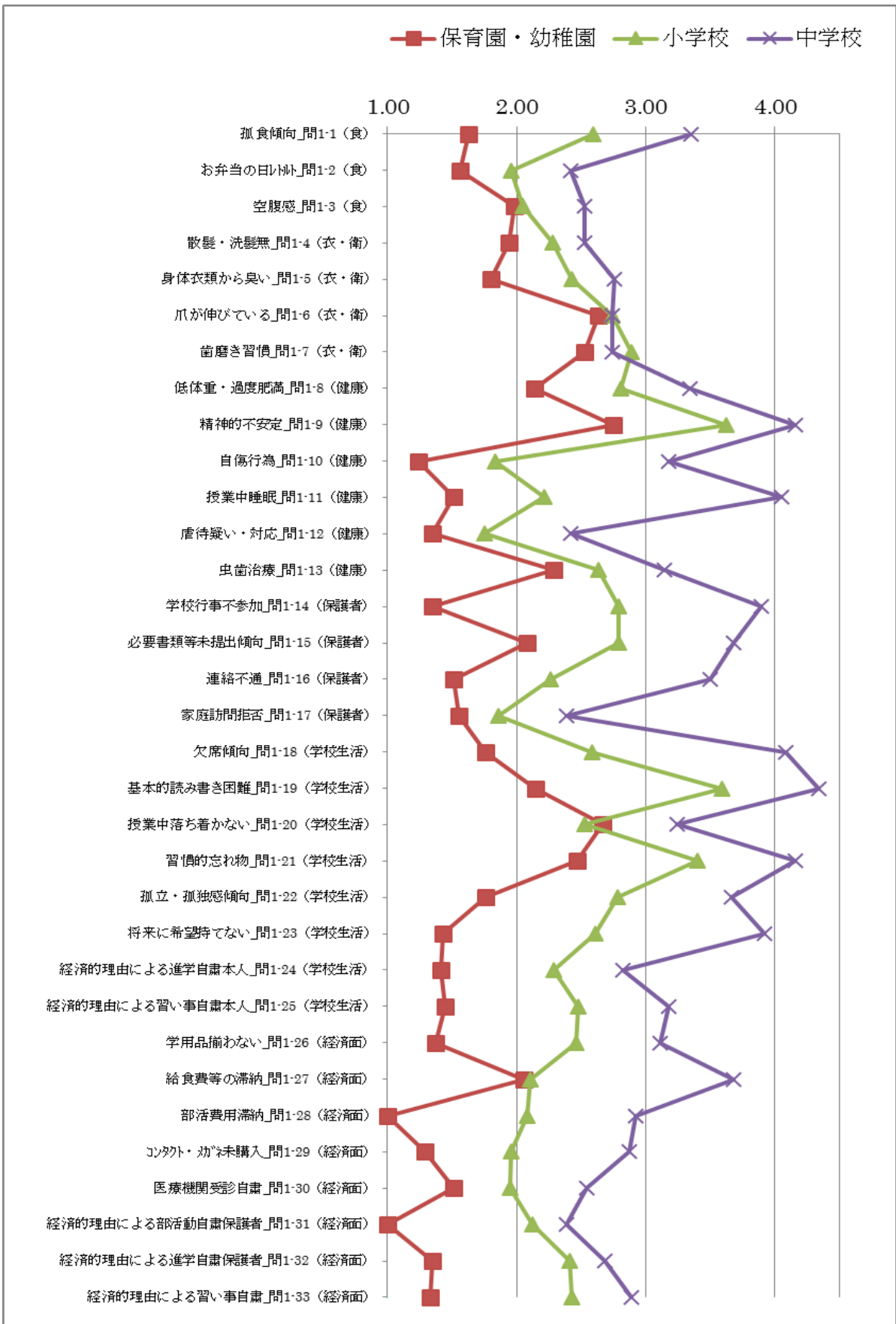
学校行事にほとんど参加しない保護者がいる (3.89)」、「15. 必要書類, 提出物の提出がなされない保護者がいる (3.68)」、「16. 不在時の電話の折り返し, 伝言への返答がない等, 連絡がつかない保護者がいる (3.50)」、「18. 欠席が目立つ子どもがいる (4.08)」、「20. 授業中に教室を動き回る等落ち着きのない子どもがいる (3.24)」、「22. 孤独・孤立を感じている子どもがいる (3.66)」、「23. 将来に希望が持てない子どもがいる (3.92)」、「24. 経済的な理由で進学をあきらめている子どもがいる (2.82)」、「25. 経済的な理由で習い事 (学習塾等) をあきらめている子どもがいる (3.18)」、「26. 学用品が揃わない, 揃えることに困難を感じている家庭がある (3.11)」、「27. 給食費, 修学旅行積立費のいずれかを滞納している家庭がある (3.68)」、「28. 部活動に関する費用を滞納している家庭がある (2.92)」、「29. 視力が悪いにもかかわらず, コンタクトレンズ, メガネを購入していない子どもがいる (2.87)」、「30. ケガをしたり, 具合が悪いにもかかわらず医療機関にかかっていない子どもがいる (2.54)」、「31. 経済的な理由で部活に入部していない家庭がある (2.39)」、「32. 経済的な理由で子どもの進学をあきらめていない保護者がいる (2.68)」、「33. 経済的な理由で習い事 (学習塾等) をあきらめている保護者がいる (2.89)」という結果になりました。

■表 2-(1)-1 学校・クラス等の状況

No.	分類	質問項目	保育所 幼稚園	小学校	中学校	全体
1	食事	家庭での食事は, 一人で食べている等 (孤食) が会話にあがる子どもがいる	1.63	2.59	3.35	2.49
2		「お弁当の日」にレトルト食品やコンビニ弁当を持ってくる子どもがいる	1.56	1.96	2.42	1.95
3		(日常的に) 空腹を訴える, 食べ物をねだる等, 食事を食べていないと思われる子どもがいる	1.98	2.05	2.53	2.13
4	衣類	散髪をしていない, または洗髪ができていない子どもがいる	1.94	2.28	2.53	2.24
5		身体や衣類からの臭いが気になる子どもがいる	1.80	2.43	2.76	2.34
6	衛生	爪が伸びており, 爪垢がたまっている子どもがいる	2.63	2.74	2.74	2.71
7		歯磨きをしない, または歯磨きができていない子どもがいる	2.53	2.89	2.74	2.77
8	健康	低体重または過度の肥満の子どもがいる	2.14	2.81	3.34	2.75
9		精神的な不安定さがある子どもがいる	2.75	3.62	4.16	3.51
10		自傷行為をする子どもがいる	1.24	1.83	3.18	1.94
11		授業中に寝ていることが多い子どもがいる	1.51	2.21	4.05	2.38
12		虐待の疑いがあり, 対応したことがある子どもがいる	1.35	1.75	2.42	1.77

No.	分類	質問項目	保育園 幼稚園	小学校	中学校	全体
13	健康	虫歯が多いにもかかわらず治療をしていない子どもがいる	2.29	2.63	3.14	2.64
14	家庭	学校行事にほとんど参加しない保護者がいる	1.35	2.79	3.89	2.64
15		必要書類, 提出物の提出がなされない保護者がいる	2.08	2.79	3.68	2.78
16		不在時の電話の折り返し, 伝言への返答がない等, 連絡がつかない保護者がいる	1.51	2.26	3.50	2.31
17		家庭訪問を拒否する保護者がいる	1.55	1.86	2.39	1.88
18	学校 生活	欠席が目立つ子どもがいる	1.76	2.58	4.08	2.67
19		基本的な読み書き・計算が難しい子どもがいる	2.15	3.59	4.34	3.39
20		授業中に教室を動き回る等落ち着きのない子どもがいる	2.67	2.53	3.24	2.70
21		忘れ者等が日常的に多い子どもがいる	2.47	3.40	4.16	3.32
22		孤独・孤立を感じている子どもがいる	1.76	2.78	3.66	2.69
23		将来に希望が持てない子どもがいる	1.43	2.61	3.92	2.57
24		経済的な理由で進学をあきらめている子どもがいる	1.41	2.29	2.82	2.18
25		経済的な理由で習い事(学習塾等)をあきらめている子どもがいる	1.45	2.48	3.18	2.36
26	経済 面	学用品が揃わない, 揃えることに困難を感じている家庭がある	1.37	2.46	3.11	2.31
27		給食費, 修学旅行積立費のいずれかを滞納している家庭がある	2.06	2.11	3.68	2.40
28		部活動に関する費用を滞納している家庭がある	1.00	2.08	2.92	1.95
29		視力が悪いにもかかわらず, コンタクトレンズ, メガネを購入していない子どもがいる	1.29	1.96	2.87	1.97
30		ケガをしたり, 具合が悪いにもかかわらず医療機関にかかっていない子どもがいる	1.51	1.95	2.54	1.95
31		経済的な理由で部活に入部していない家庭がある	1.00	2.12	2.39	1.85
32		経済的な理由で子どもの進学をあきらめている保護者がいる	1.35	2.41	2.68	2.20
33		経済的な理由で習い事(学習塾等)をあきらめている保護者がいる	1.33	2.43	2.89	2.25

■ 図 2-(1)-2 学校・クラス等の状況



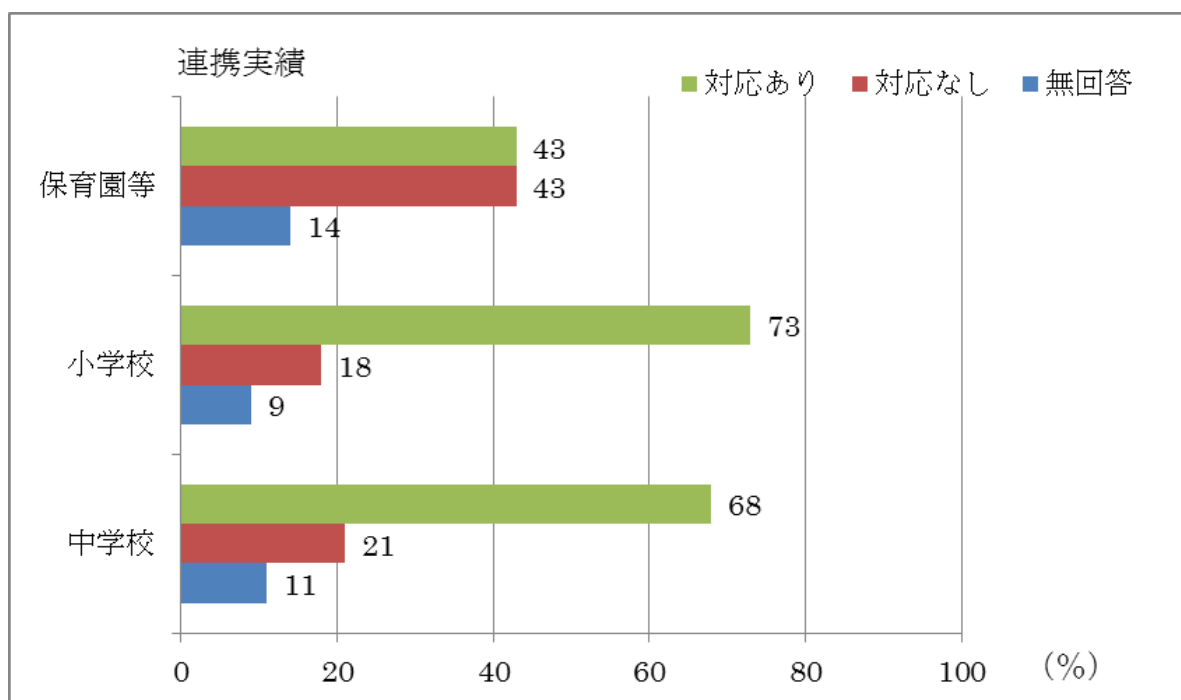
(4) 関係機関との連携の有無

子どもの健康と生活に関する問題対応について、関係機関と連携して対応したことがあるか尋ねてみました。その結果、回答者 201 名のうち 130 名 (65%) が「連携して対応したことがある」と回答しました。種別ごとにみていくと保育園・幼稚園では 21 名 (43%)、小学校では 83 名 (73%)、中学校では 26 名 (68%) が「連携して対応したことがある」と回答しました。小学校、中学校では約 7 割の教員が他の関係機関等と積極的に連携し、子どもの健康と生活に関する問題対応にあたっていることがわかりました。

■2-(4)-1 関係機関との連携の有無

質問項目	保育園・幼稚園		小学校		中学校		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
連携して対応したことがある	21	43	83	73	26	68	130	65
連携して対応したことがない	21	43	21	18	8	21	50	25
無回答	7	14	10	9	4	11	21	10
合計	49	100	114	100	38	100	201	100

■2-(4)-2 関係機関との連携の有無



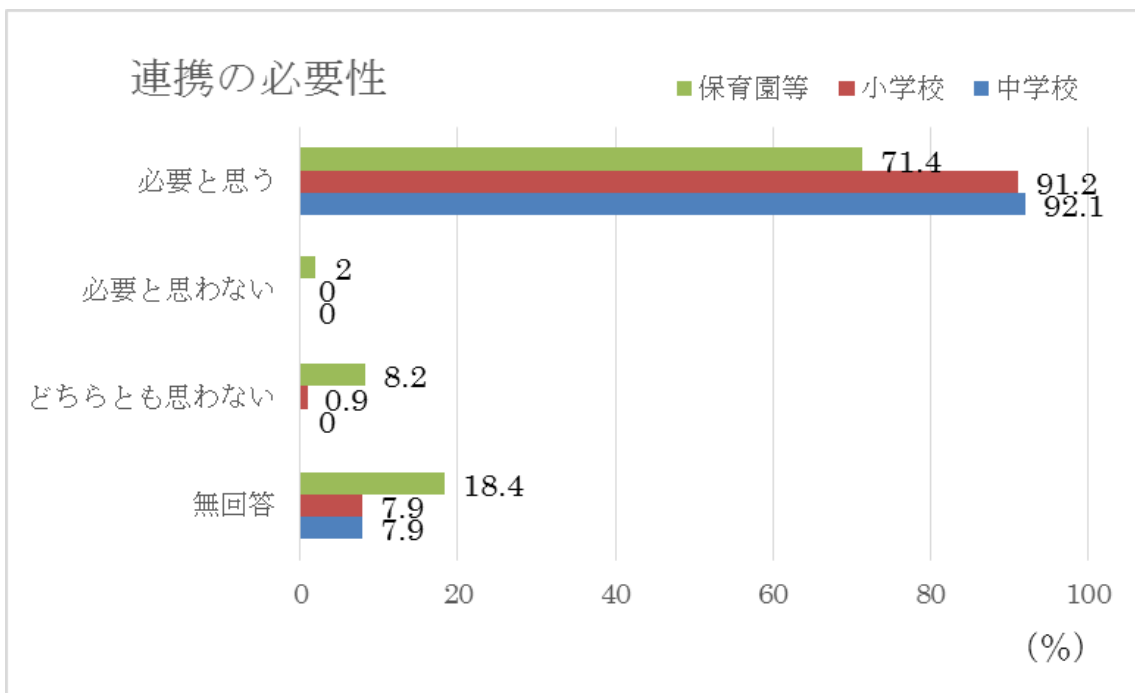
(5) 関係機関との連携の必要性

子どもの健康と生活に関する問題対応について、学校等と関係機関がネットワークを組む必要性の有無について尋ねてみました。回答者 201 名のうち、174 名 (86.6%) が「必要と思う」と回答しました。種別ごとにみていくと保育園・幼稚園が 35 人 (71.4%)、小学校が 104 名 (91.2%)、中学校が 35 名 (92.1%) でした。小学校、中学校の 9 割以上の教員が子どもの健康と生活に関する問題について学校と関係機関との連携の必要性を感じておられることがわかりました。

■2-(5)-1 関係機関との連携の必要性

質問項目	保育園・幼稚園		小学校		中学校		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
必要と思う	35	71.4	104	91.2	35	92.1	174	86.6
必要と思わない	1	2.0	0	0	0	0	1	0.4
どちらとも思わない	4	8.2	1	0.9	0	0	5	2.5
無回答	9	18.4	9	7.9	3	7.9	21	10.4
合計	49	100	114	100	38	100	201	100

■2-(5)-2 関係機関との連携の必要性



(6) 連携機関

支援の際に連携した機関について複数回答で尋ねました。全体ではスクールカウンセラーが 94 人 (18%)、次いで社会福祉協議会が 62 人 (12%)、医療機関が 61 人 (12%) であった。種別ごとにみていくと、保育園・幼稚園では福祉事務所が 22 人 (34%) と最も高く、次いで児童相談所が 8 名 (13%)、民生委員児童委員が 8 名 (13%)、医療機関が 8 名 (13%) でした。

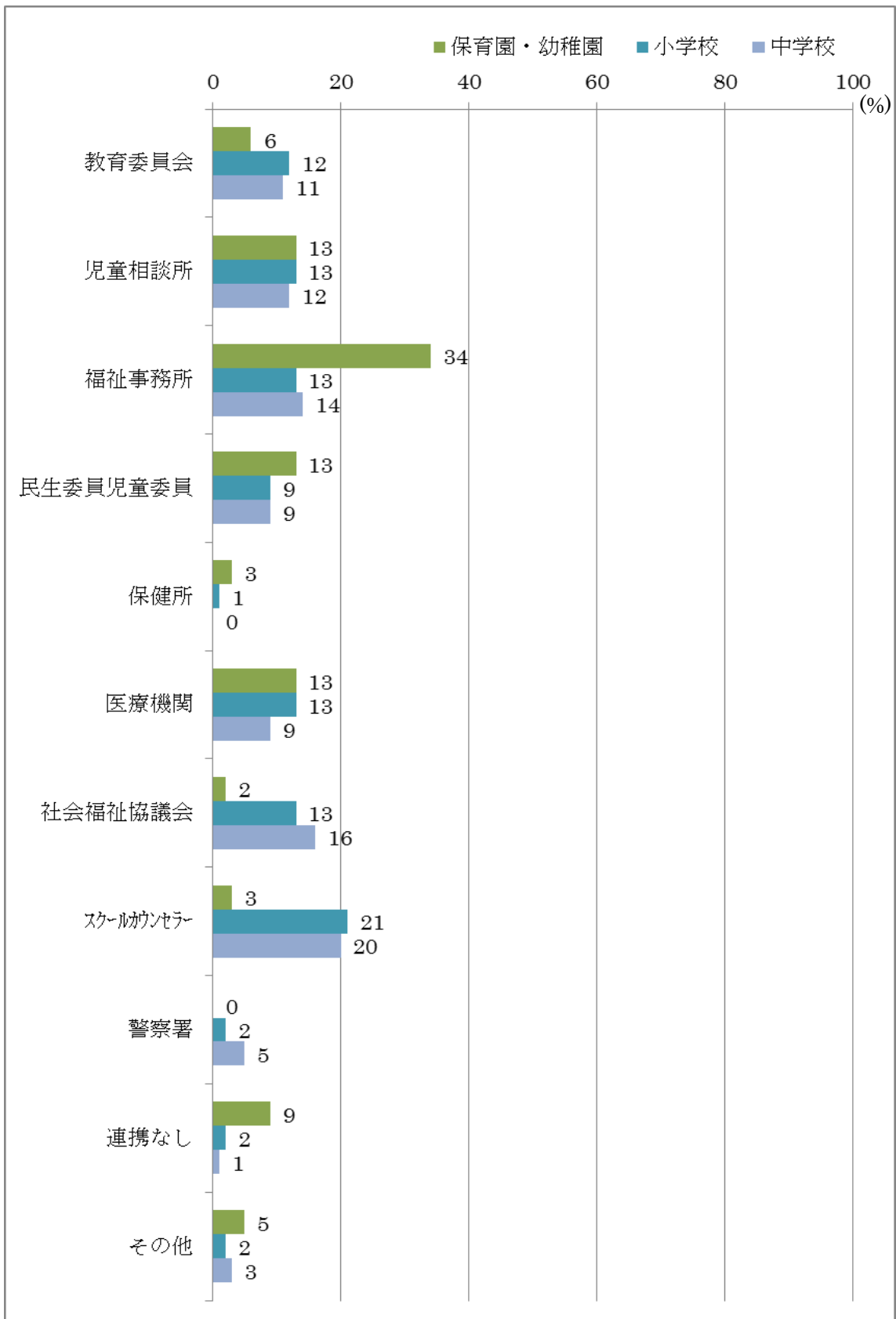
小学校ではスクールカウンセラーが 67 名 (21%) と最も高く、次いで福祉事務所が 43 名 (13%)、児童相談所が 41 名 (13%)、医療機関が 41 名 (13%)、社会福祉協議会が 41 名 (13%)、でした。

中学校では、スクールカウンセラーが 25 名 (20%) と最も高く、次いで社会福祉協議会が 20 名 (16%)、福祉事務所が 18 名 (14%) でした。

■表 2-(6)-1 連携機関 (複数回答可)

項目	保育園・幼稚園		小学校		中学校		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
教育委員会	4	6	38	12	14	11	56	11
児童相談所	8	13	41	13	15	12	64	13
福祉事務所	22	34	43	13	18	14	83	16
民生委員児童委員	8	13	28	9	12	9	48	9
保健所	2	3	3	1	0	0	5	1
医療機関	8	13	41	13	12	9	61	12
社会福祉協議会	1	2	41	13	20	16	62	12
スクールカウンセラー	2	3	67	21	25	20	94	18
警察署	0	0	7	2	6	5	13	3
連携したことがない	6	9	7	2	1	1	14	3
その他の機関	3	5	5	2	4	3	12	2
合計	64	100	321	100	127	100	512	100

■表 2-(6)-2 連携機関（複数回答可）



(7) 他機関との調整役

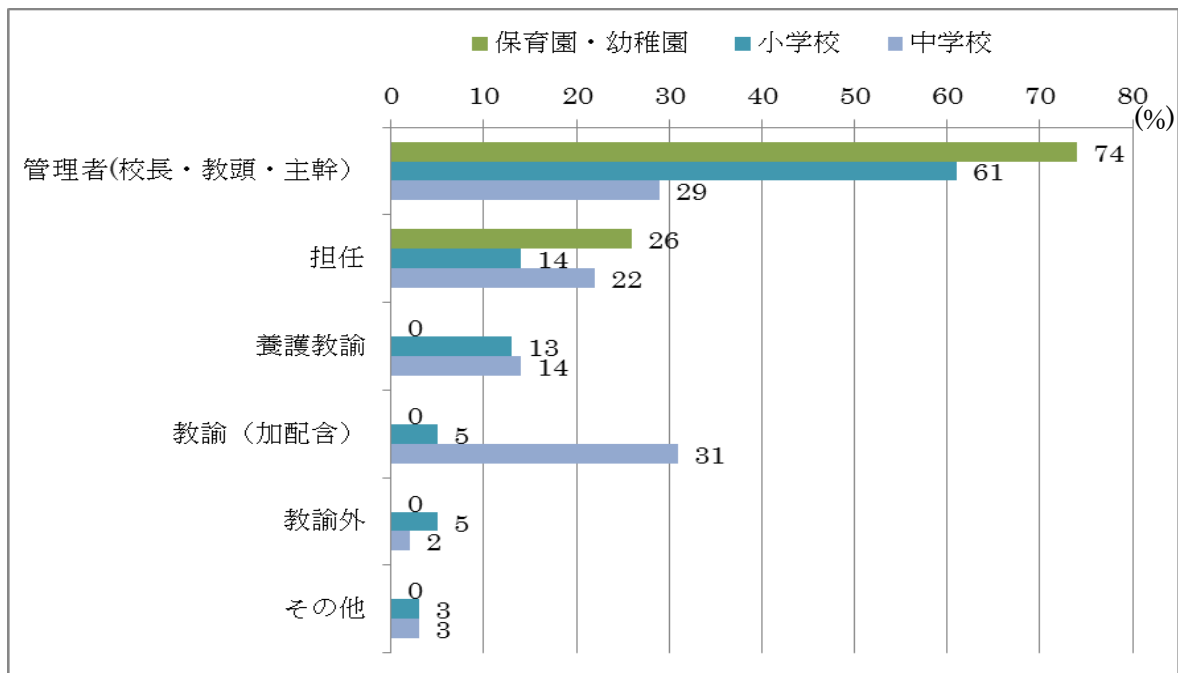
あなたの所属する機関において、関係機関と連携する調整役は主にどなたが担われるか複数回答で尋ねました。全体では管理職（校長・教頭・主幹教諭）が154名（56%）と最も高く、次いで担任が50名（18%）、養護教諭が28名、教諭（加配含）が28名でした。

種別ごとにみていくと、保育園・幼稚園では管理職（園長・主任）が43名（74%）と最も高く、次いで担任が15名（26%）の順でした。小学校では管理職（校長・教頭・主幹教諭）が92名（61%）と最も高く、次いで担任が21名（14%）、養護教諭が19名（13%）の順であった。中学校では教諭（加配含）が20名（31%）と最も高く、次いで管理職（校長・教頭・主幹教諭）が19名（29%）、担任が14名（22%）の順でした。

小学校までは調整役として管理職と回答する割合が高かったが、中学校になると教諭がその任を担うことが増えることがわかりました。

■表 3-(7)-1 他機関との調整役 [複数回答可]

項目	保育園・幼稚園		小学校		中学校		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
管理職（校長・主幹・教頭等）	43	74	92	61	19	29	154	56
担任	15	26	21	14	14	22	50	18
養護教諭	0	0	19	13	9	14	28	10
教諭（加配含）	0	0	8	5	20	31	28	10
教諭外	0	0	8	5	1	2	9	3
その他	0	0	4	3	2	3	6	2
合計	58	100	152	100	65	100	275	100



(8) 関係機関との連携の課題

関係機関との連携上の課題について尋ねてみました（複数回答）。全体としては「保護者に対する回答の仕方」が94人（16%）と最も高く、次いで「時間・日程・連絡調整」が81名（14%）、「学校と関係機関との立場や考え方」が57名（10%）でした。種別ごとにみていくと、保育園・幼稚園では「保護者に対する対応の仕方」が24名（24%）、次いで「学校と関係機関との立場や考え方」が17名（17%）、「組織内の情報共有」が14名（14%）の順に高い状況でした。小学校では「時間・日程・連絡調整」が58人（9%）と最も高く、次いで「保護者に対する対応の仕方」が55名（16%）、「スクールソーシャルワーカーの配置」が41名（12%）の順に高かったです。中学校では「保護者に対する対応の仕方」が15名（12%）と最も高く、次いで「時間・日程・連絡の調整」が14名（11%）、「スクールソーシャルワーカーの配置」が12名（10%）の順に高かったです。

■表 3-(8)-1 関係機関との連携の課題 [複数回答可] (%は小数点以下を四捨五入して表示)

項目	保育園・幼稚園		小学校		中学校		全体	
	n	%	n	%	n	%	n	%
時間・日程・連絡調整	9	9	58	16	14	11	81	14
学校と関係機関との立場や考え方	17	17	31	5	9	7	57	10
連携担当の職員の配置	3	3	16	3	4	3	23	4
担当者の異動による引継ぎ体制	6	6	10	7	7	6	23	4
日常の業務	3	3	24	4	10	8	37	6
関係機関との信頼関係の構築	11	11	15	8	8	7	34	6
組織内の情報共有	14	14	27	4	7	6	48	8
個人情報の取扱い	8	8	15	4	5	4	28	5
スクールソーシャルワーカーの配置	0	0	41	12	12	10	53	9
保護者に対する対応の仕方	24	24	55	16	15	12	94	16
行政サービス（子育て支援・福祉）の体制強化	5	5	17	5	10	8	32	6
社会福祉協議会が行う「子ども若者支援」の体制強化	1	1	12	3	8	7	21	4
低所得者対象の学習支援の充実	1	1	14	4	10	8	25	4
居場所支援の充実	0	0	15	4	3	2	18	3
その他	0	0	4	1	1	1	5	1
合計	102	100	354	100	123	100	579	100

